

## 平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールB (Seminar of Study B )【濱永研究室】		授業コード	L120561
担当教員名	濱永 康仁		科目ナンバリングコード	L31205
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	研究ゼミナールAを受講した人の受講が望ましい。			
受講心得	建築材料に関する学術論文を輪読しますので、はじめは難しくても努力して学修してください。			
教科書	ありません。			
参考文献及び指定図書	ありません。			
関連科目	卒業研究。研究ゼミナールA。			

授業の目的	卒業研究のための、文献調査ができるようになることが目標です。
授業の概要	受講生が文献を読んで、概要を発表するなど、学生主体で学修します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：研究とは</b> 研究とはどのようなものか、建築材料を例にして説明します。	なし
<b>第2週：研究とは(続き)</b> 前の週の続きですが、卒業研究の観点から説明します。	なし
<b>第3週：研究論文の調査</b> 建築材料に関するテーマを1つ選び、そのテーマに関する研究論文の見つけ方を説明します。実際にインターネットを利用して、調査を試みます。	学修内容のノートの作成
<b>第4週：研究論文のリスト</b> 調査した研究論文のリストを作成し、その中から代表的なものを1編選んで、実物を入手します。	研究論文リストの作成
<b>第5週：研究論文の輪読</b> 入手した研究論文を、受講生が分担して輪読します。	輪読のまとめの作成
<b>第6週：研究論文の輪読(続き)</b> 受講生の輪読を続けます。	輪読のまとめの作成
<b>第7週：研究論文の輪読(続き)</b> 受講生の輪読を続けます。	輪読のまとめの作成
<b>第8週：輪読のまとめ</b> 各自が輪読した部分をまとめて、ひとつのレポートに作成します。	レポート作成
<b>第9週：輪読の検討</b>	

輪読した内容を検討し、論文が示している新しい知見について、評価します。		評価の記録作成
<b>第10週：担当教員の解説</b> 担当教員が、論文に示される新しい知見について解説します。その解説と、受講生がまとめた輪読結果を比べます。		解説や比較の記録の作成
<b>第11週：輪読レポートの修正</b> より適切な論文の読み方について、担当教員が解説します。それを参考にして、輪読をまとめたレポートを修正します。		レポートの修正
<b>第12週：発表原稿の作成</b> 受講生のそれぞれが輪読した部分について、発表する原稿を作成します。発表の練習をします。		原稿の作成
<b>第13週：輪読の発表</b> それぞれの受講生が自身の輪読部分の要点を発表します。		発表原稿の作成
<b>第14週：発表のまとめ</b> 各自の発表をまとめて、全体としての結論を作成します。		結論の作成
<b>第15週：総括</b> 研究を行うにあたり、既往の研究から学ぶことの重要性を認識します。		なし
<b>第16週：期末試験</b> 行いません。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
地域志向科目		
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	①学修に参加する熱意をもつ。
<b>【知識・理解】</b>	②学会発表の論文の内容を読み取る力をつける。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	③自らの考えをポスターにして発表する。
<b>【思考・判断・創造】</b>	④聞く人に理解させるために必要なことをポスターに表示して、その発表原稿を作成する。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	0点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		<b>20点</b>		
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		<b>20点</b>		

<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			<b>30点</b>
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		<b>10点</b>	<b>20点</b>
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	次のSABCの到達水準を使います。Sよく満たしている。Aほぼ満たしている。B一応満たしている。C一部分満たしていく。
発表・その他 (無形成果)	作成したポスターや発表原稿、またそれらを使った発表により評価します。到達水準は上記のSABCです。